

## 環境心理生理運営委員会 議事録 2016 年度 第 2 回

文責 大石

- A. 【日 時】 2016 年 9 月 12 日 月曜日 (17:30~20:00)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 西名大作 (主査)、辻村壮平 (幹事)、大石洋之 (幹事)、大野隆造、土田義郎、楢究、宗方淳、小島隆矢、大井尚行 (Skype) 順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2-0 議事次第  
2-1 2016 年度 第 1 回 環境心理生理運営委員会 議事録 (案)  
2-2 20160912\_環境工学本委員会 (第 2 回) 議題  
2-3 160905\_第 16 回環境心理生理チュートリアル実施報告  
2-4 161210 心理生理フロンティアシンポ 企画 0905  
2-5 2016 若手優秀発表賞審査結果  
2-6 人間環境学の領域検討 WG 設置申請 (案)  
※資料はオンラインストレージにより配布

### E. 【報告事項】

#### 1. 2016 年度 第 1 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認 (資料 2-1)

2016/6/10 に開催した 2016 年度第 1 回環境心理生理運営委員会の議事録 (案) の内容について確認し、正式な議事録として承認された。

#### 2. 環境工学本委員会 (9/12) 報告 (資料 2-2)

2016 年度第 2 回環境工学本委員会の内容について本運営委員会に関連の深い事項について西名主査から報告があった。以下に報告の内容を示す。

##### ・本委員会報告事項

(3) 2016 年度大会学術講演会、建築デザイン発表会発表題数

環境工学部門で 1376 題であった。

(4) 2017 年度活動計画案・予算原案、講習会等事業企画書の提出依頼

提出締切りは 10/21 となっている。

(6) 2017 年度開始 (若手奨励) 特別研究委員会公募

西名主査より心理生理分野の 40 歳以下の研究者は是非応募して欲しいとのコメントがあった。

(7) 第 55 回 (2016 年度) 竹中育英会建築研究助成金

環境工学分野の交付者は 2 名であった。

(8) 2016 年度鹿島学術振興財団研究助成の募集

提出締切りは 10/14 となっている。

(9) 2017 年度大会準備日程

OS 提案の締切りは 11/22 となっている。同日開催の本委員会で承認が必要。

(10) 2015 年度学術推進委員会報告

若手優秀発表は、昨年度 631 名に対して 75 名が受賞者。

(11) 論文集の国際化に関する動向と、新英文誌検討 TF (タスクフォース) の設置副会長の田辺先生が頭となって動き出している。

建築学会ではこの問題が重要視されており、大会研究懇談会でも取り上げられた。

研究懇談会では、中韓は英文誌への投稿が活発だが日本は乏しいという意見も出ていた。

現在、建築学会には JAABE というインパクトファクター付きの雑誌があるが半数以上が韓国からの投稿。

#### ・本委員会審議事項

##### 1. 業績候補推薦依頼

10/7 が締切り。音環境分野の藤本先生 (九州大学) が推薦される。

##### 2. 委員推薦

###### (1) 卒業論文等顕彰事業委員会委員の推薦

岩本先生と山中先生が退任される。後任は、設備と空気分野から各 1 名が推薦される。

###### (2) 第 30 回環境工学連合講演会運営委員の推薦

首都大学の永田先生が推薦された。

##### 3. 2016 年度大会関係事項

###### (1) 大会の反省 (学術講演会、研究協議会・研究懇談会、若手優秀発表賞)

音環境分野から 2 日目と 3 日目で部屋が並行開催となり参加者が分散したことに対する苦情があった。

PC とプロジェクタの相性が悪く、スライドが映らないケースがあった。(心理生理分野の部屋でも発生)

###### (2) デジタルライブラリーアンケート

研究協議会と研究懇談会の資料はまだ残部があるため 1 年後に会員限定で公開予定。

環境振動の PD 資料は残部なしとのことで 3 か月後に会員限定で公開予定。

##### 4. 2017 年度大会関係事項 (11/21 締切り)

###### (1) オーガナイズドセッションについて

OS は今回 7 分野の提案があった。

心理生理分野については、後程、運営委員会内で議論の予定。

###### (2) 細分類・細々分類の変更、発表部門別注意事項

熱環境分野は調整したいという意見が出ていた。

###### (3) 研究協議会・研究懇談会

研究協議会は中国支部で企画される。

中国支部の環境工学委員長である山口大学の小金井先生がエコスクールという案で提案。

研究懇談会は本委員会幹事の岩田先生が企画、地球環境分野との共催となる。

##### 5. 2017 年度「技術部門設計競技」の企画・実施依頼

2017 年度の技術部門設計協議が環境工学に依頼される。テーマは UD、バリアフリーに関してということで環境設計運営委員会が担当することとなった。

##### 6. 2017 年度予算配分方針

基本部門と研究部門の予算はこれまで 25% : 75% の配分、消化率は基本部門 9 割、研究部門 6 割であった。

今後は消化率を考慮して基本部門と研究部門の配分を調整する案が幹事団より出てきている。

## 7. 刊行関係

### (1) AIJES 刊行手続き

免責事項を記載する方針となった。

### 12. 環境工学研究者名簿について

前回本委員会では継続審議となったが、今回の本委員会で廃止が決定された。

人事で活用するという話なども、リサーチマップ等で対応可能との意見が出ていた。

### 13. その他

・図書委員会からデジタルアーカイブスについての議題が挙がった。

所蔵資料を積極的に Web で公開したいという図書委員会からの希望があり、環境工学分野では音・熱・空気・光運営委などのシンポジウム資料について照会を受けた。本委員会の場で議論されたが、公開を了承するとした場合、著作権の問題を回避するために具体的にどのような確認業務を行う必要があるのか、図書委員会に照会することとなった。

・今年度は予算の執行状況について 11/22 の本委員会で確認が行われる。

その時点で各小委員会の残りの開催予定を西名主査が把握できるようにしておく必要がある。(大井委員)

## 3. 各小委員会・WG の活動報告 (資料 2-3~2-4)

### ・環境心理小委員会 (榎委員より報告)

辻村幹事より 9/5 のチュートリアル開催報告があった。

かわいい WG 主催のシンポジウムが 10/14 に開催される。他の小委員会についても参加意欲の依頼があった。

文化と環境 WG は委員のディスカッションを中心に進めている。10/21 までにもう一度小委員会を開催予定。

次年度の活動計画では、チュートリアル運営 WG は主査を辻村幹事のまま継続。環境心理研究手法 WG は、刊行に移行する方向で考えている。かわいい WG は、宇治川主査の意向で 4 年間の活動期間をもって今年度で終了の方針。文化と環境 WG は、後継の WG を設置予定。

### ・社会と環境心理小委員会 (宗方委員より報告)

次年度の活動計画として、これまでと同様に、ミニ研究会を開催していく。

人間環境学の改訂 WG を小委員会傘下にぶら下げてよいのでは? と考えている。(宗方委員)

活動計画案についてはメール審議を行う。1 週間前までに運営委員会宛てにメールを送る。

### ・感覚・知覚心理小委員会 (土田委員より報告)

小委員会を 10/15 に関西大学で開催予定。合掌委員が研究紹介を行う。

その後、年度内にもう 1 回、小委員会を開催予定。

現在、「ひかりと景観評価」と題するシンポジウムを企画しており、12/10 に開催予定。

シンポジウムに関して、大井委員より建築雑誌に載せなければならないというルールがあり、環境工学本委員会のみならず CPD の会議にも通っていないと掲載できない。開催に向けてどういった事務手続きが必要か、事務局に早急に相談する必要があるとのコメントがあった。

なお、同シンポジウムについては 12/10 に開催可能かどうかは未定であるが、開催すること自体については、この議論をもって承認とした。

次年度活動計画については、感覚・知覚小委員会を廃止して、新たに小委員会を新設する予定。活動内容は西日本を中心とした活動の核としたい。なお、名古屋市立大学の原田先生に次期小委員会主査を打診中。

## **F. 【審議事項】**

### **4. 環境心理生理運営委員会の次年度の体制について**

西名主査より、2014 年度の運営委員会の活動計画に「2016 年度末には主査・幹事を交代する」と明記していたことも含め、2017 年度からの主査・幹事交代について、今回の運営委員会で議論をしたいという提案があった。

前任の松原委員は 2 期（4 年間）運営委員会主査を務められた。これまでの運営委員会主査は 2 期務めることもあり、現体制で継続することも可能。ただし、継続の場合も主査推薦、選挙を行っている。何かあった時のためにも正式な段取りを踏んで決定する方針となった。

時期主査選挙について、西名主査から 9 月中～10 月はじめに進めるというスケジュール提案があり、9/26 締切りで推薦者、立候補者を募り、複数の場合には選挙をして 10 月はじめに決定することとなった。

その後については、10/21 までに新主査のもと次期活動体制等を作成し、運営委員会メンバー宛てに報告する方針となった。

### **5. 2016 年度大会若手優秀発表賞 審査結果について（資料 2－5）**

審査対象者は 65 名のため、授賞者は 6～7 名となる。

審査結果の表より順位と得点にもとづいて運営委員会で議論した結果、7 位までの 8 名を授賞者とした。

### **6. 2017 年度大会 OS について**

運営委員会の議論において、OS は積極的にやった方が良いとの意見が挙がった。

西名主査から、心理生理の OS セッションで議論が活発だったため、研究協議会で実施してはというコメントをもらったというお話があった。研究協議会は中国支部の企画が 9/12 の本委員会で報告されており、研究協議会としての開催は事実上困難であるため、もう 1 度本年同様のテーマで実施しても良いのでは、という提案があった。

OS については 11/22 の本委員会までに提案できればよいため、委員からの提案を 10 月いっぱいまで待ち、提案がなければ西名主査が今年度のテーマの第 2 弾として企画する方針となった。

### **7. 人間環境学の領域検討 WG の設置について（資料 2－6）**

運営委員会傘下の WG として設置する方針となり、WG メンバーを検討するにあたって、各小委員会主査から各所属委員に参加の意思を打診することとなった。

大野委員より、若手（博士課程含む）の方にメンバーになってもらい、積極的に WG で議論してほしいとの意見が挙がった。

大井委員より、現在の人間環境学の書籍は、どういう本を作るか、という議論について

は、偉い先生がやっていた印象、アメリカの本の目次を集めて並べたりしていた、とのコメントがあった。

宗方委員より、若手のみで議論になるか？ということが問題になる気がする、先輩研究者のところに若手を入れる方が良い気がする、との意見が挙げられた。

榎委員より、若手メンバーの顔を思い浮かべておいて議論した方がよいのでは？メンバーの研究分野の偏りについても検討した方がよいのでは、との意見が挙げられた。

以上を受けて、WGメンバーの候補者のリストを作成し、次回の運営委員会で議論する方針となった。

西名主査、および各賞委員会主査より、各所属委員にWGへの参加意向をうかがい、西名主査が候補者の集約を行う方針となった。

#### **G. 【次回の開催日程】**

次回開催日は、本委員会が開催される11/22（火）の17：30～19：30。

以上